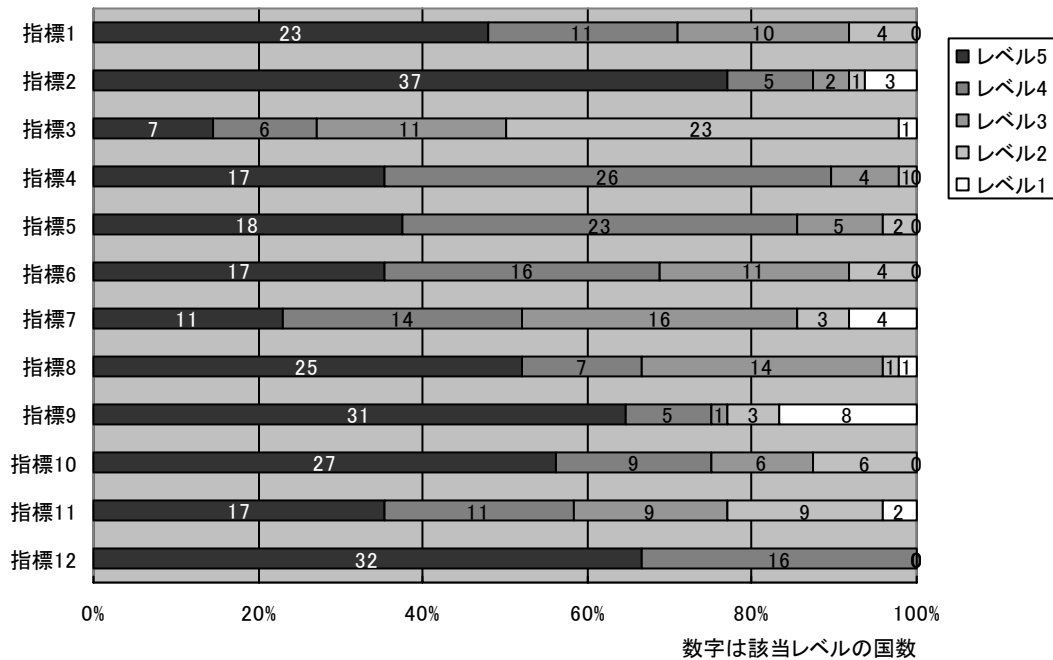


ボローニャ・プロセス実施における諸問題  
 ～BFUG、学生、参加国国内の三視点から～

最終更新 2007 年 8 月 6 日  
 OFIAS リエゾン・オフィサー新井早苗

1. ボローニャ・プロセス進捗に関する公式報告:ボローニャ・プロセス参加国全体の指標ごとの達成状況



(1) Bologna Follow-up Group - Stocktaking Working Group 2005-2007 (2007 年 5 月), *Bologna Process Stocktaking London 2007* より

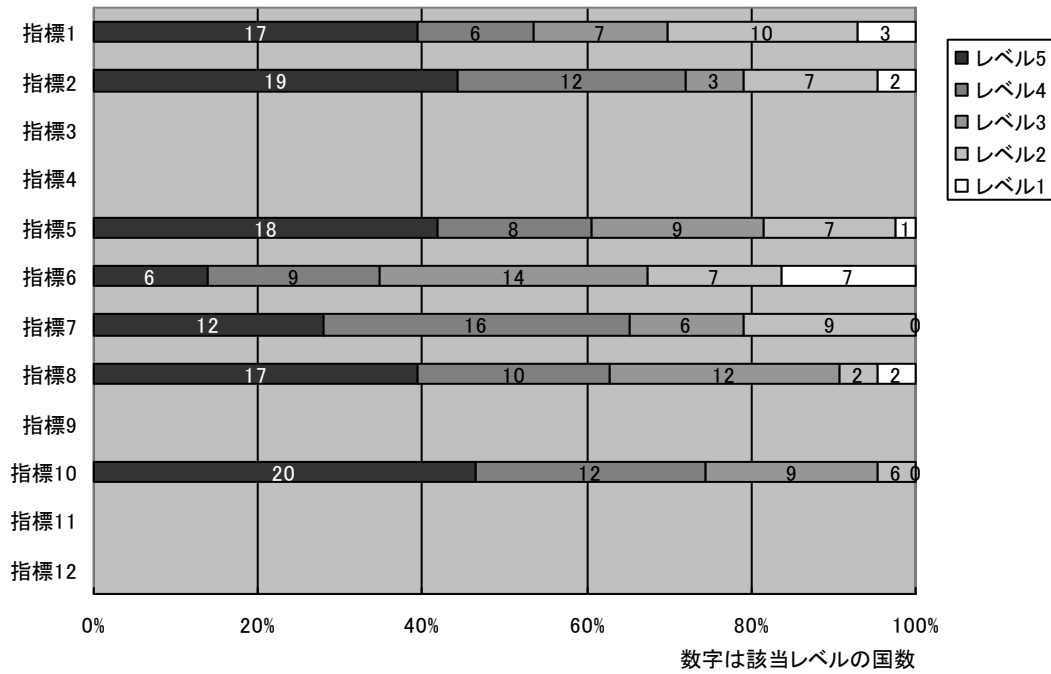
<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/6909-BolognaProcessST.pdf>

指標1	第1課程(学士)及び第2課程(修士)導入状況 Stage of implementation of the first and second cycle
指標2	次の学位段階へのアクセス Access to the next cycle
指標3	国レベルの学位認定フレームワークの導入(新指標) Implementation of national qualifications framework
指標4	『EHEA 質保証の基準とガイドライン』の国レベルの導入(新指標) National implementation of <i>Standards and Guidelines for QA in the EHEA</i>
指標5	外部評価システムの発達段階 Stage of development of external quality assurance system
指標6	質保証への学生参加レベル Level of student participation
指標7	質保証における国際的な参加 Level of international participation
指標8	ディプロマ・サブプリメント(DS)の導入状況 Stage of implementation of diploma supplement
指標9	リスボン認証協定の国レベルの実施(2005 年以降基準に変更あり) National implementation of the principles of the Lisbon Recognition Convention
指標10	ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)の導入段階 Stage of implementation of ECTS
指標11	事前(入学前)学習に対する評価(新指標) Recognition of prior learning
指標12	ジョイント・ディグリーの制定と評価(新指標) Establishment and recognition of joint degree

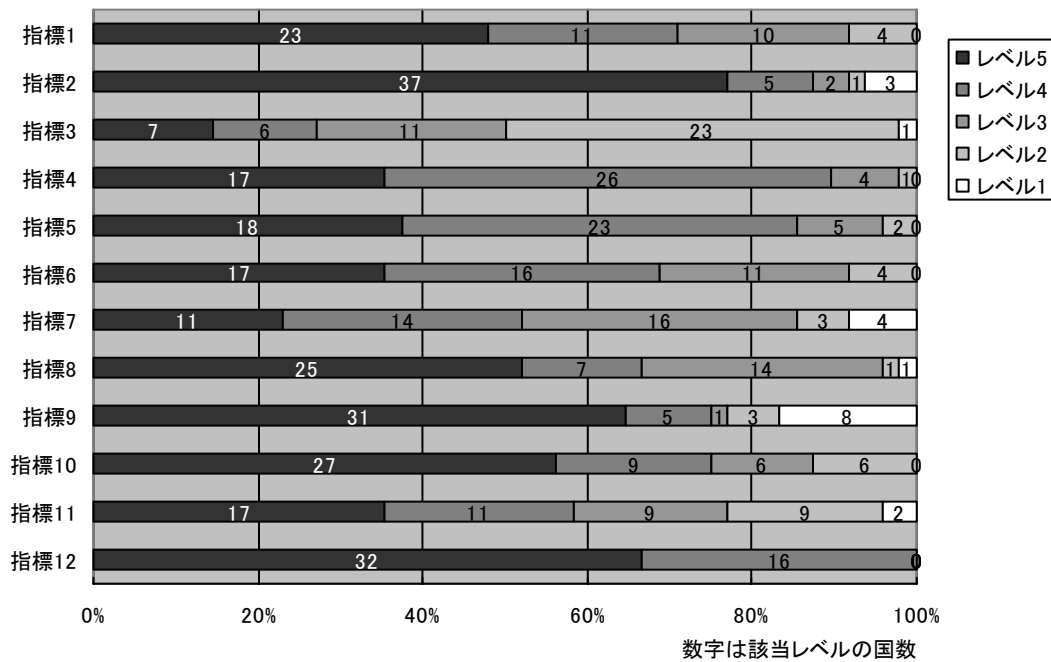
- \*レベル5 Excellent performance
  - レベル4 Very good performance
  - レベル3 Good performance
  - レベル2 Some progress has been made
  - レベル1 Little progress has been made yet
- 指標ごとの各レベルの詳細に関しては原文を参照のこと

2005年との比較

2005年



Bologna Process Stocktaking Report 2005 より



2007年

(2) Andrejs Rauhvargers (2007), Chair of Stocktaking Working Group, Bologna Process Stocktaking (Presentation)より

[http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/20070517\\_Rauhvargers\\_Stocktaking\\_London\\_final.ppt](http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/20070517_Rauhvargers_Stocktaking_London_final.ppt)より

- ・ 「棚卸し」(stocktaking)の目的: 現在地の確認(「国間の競争にあらず」)
- ・ 材料: ナショナル・レポート及びアクション・プラン
- ・ 作業担当: 2005年ベルゲン会合での委任によるワーキング・グループ
- ・ 各指標について
  - 指標1 2サイクル: 進捗良好。完了の可能性高し。
  - 指標2 次の学位段階へのアクセス: 法的な障害が減った。コース間の橋渡し、学士に2レベル
    - \* 第3サイクルの導入: 構造化された博士課程が軌道に
    - \* 卒業生の雇用可能性: 重要視されているがデータがない。労働市場や経済の影響を受けやすい。労働市場への高参加率、新学士の雇用問題あり
  - 指標3 国レベルの学位認定フレームワーク(NQF)の導入: 少なくともワーキング・グループが設置された。NQFは学習成果アプローチに関係のあるQA、ECTS、資格認定(特に事前学習)、柔軟な学習の進め方等他のアクション・プランと整合性をとりながら進める必要がある。
  - 指標4 『EHEA 質保証(QA)の基準とガイドライン』の国レベルの導入: 公式な質保証システムはあるが、実質的な質保証の文化や国内QAを学習の成果に結びつけるのが課題
  - 指標5 外部評価(QA)システムの発達段階: 良好
  - 指標6 質保証への学生参加レベル: 2005年以降伸び
  - 指標7 質保証における国際的な参加
  - 指標8 ディプロマ・サプリメント(DS)の導入状況: 良好、フォーマットをチェックする必要あり、第3サイクルについて明確化が必要
  - 指標9 リスボン認証協定の国レベルの実施: 課題は高等教育機関での実施、EHEA内での国外学位の一貫した取り扱い
  - 指標10 ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)の導入段階: 単位互換や単位蓄積に使われている。学習成果との結びつけ、認証に関する模範例の普及が課題
  - 指標11 事前(入学前)学習に対する評価: 全体的にまだ明確性に欠ける。
    - \* 柔軟な学習の進め方: 夜間、週末、Eラーニングの普及
  - 指標12 ジョイント・ディグリーの制定と評価: 多くの国でジョイント・ディグリー・プログラムを奨励すべく法律が改正された。プログラム数に関しては国レベルのデータがない。
- ・ 進んでいるエリア: 3サイクル学位システム、次サイクルへのアクセス、外部評価システム、学生の参加、ディプロマ・サプリメント、ECTS
- ・ 課題: 資格認定枠組み、質向上の文化の定着、質保証における国際的な参加、学位や単位の認定の実施
- ・ 今後: 次回にも棚卸しを行う。量的指標と質的分析の組み合わせでうまくいっている。分析部分を更に強化する。目標や成果を明確に定めた方が、棚卸しがうまく進む。
- ・ 教育大臣への提案: 以下の分野において明確な政策目標、ターゲットを示せ。第3サイクル、雇用可能性、研究、生涯学習、柔軟な勉強の進め方、社会的側面
- ・ 国への提案: もっとチャレンジングな面での前進、学習成果に基づいた国レベルの学位認定フレームワークの導入、学位認定フレームワークの発達を質保証、ECTS、生涯学習、柔軟な勉強の進め方等他のアクションラインにつなげる、国レベルの認証プランの作成

## 2. 学生の視点: ESIB 欧州学生連合による調査報告書

The National Unions of Students in Europe (ESIB) (2007年5月), *Bologna with Student Eyes 2007*

Edition, London から

<http://www.ond.vlaanderen.be/hogeronderwijs/bologna/documents/Bolognastudenteyes2007.pdf>

ESIB 欧州学生連合によるボローニャ・プロセス実施状況第3回調査(第1回2003年、第2回2005年)。今回は2006年10月にウェブを通じてアンケート調査を開始、各国の全国学生連合(学生連合のないジョージア、モルドバ、トルコ、ウクライナの場合は関連組織)からの回答、フォローアップ調査、2次資料(ナショナル・レポート、「The Eurostudent report of 2005」、ENQA や EUA などからの情報)をまとめている。36カ国をカバー。

- ・ 進行ペース: EHEA 内でプロセス進行のペースでギャップが生じている。ギャップはボローニャ・プロセスへの署名が早かったか、遅かったかとは関係しない。
- ・ 改革の実施: 多くの国で実体をともなっていない。
- ・ ECTS: 解決されていない問題のひとつ。単位蓄積や単位互換において使われていない。
- ・ 社会的な視点: 国レベルで国際レベルでのほどの関心が払われていない。e.g. 財政支援スキームが調整されていないために学生の社会的な状況が悪化している。
- ・ 移動性の障害: 欧州での学生の移動が金銭的な障害により阻まれている。ローンや助成金はほとんど1年以下の短期留学向け。学位取得を目的とする長期留学向けがない。
- ・ EU 外からの留学生: 受け入れ国において、EU 間留学生を除き、留学生が自国学生と同等の扱いを受けていない(高い授業料、宿舎の確保や就労許可の取得の困難さ)。
- ・ ジョイント/ダブル・ディグリー・プログラム:
  - (1) 政府や高等教育機関の間で関心は高まっているが、国レベルで十分に対処されているとは言えない。プログラムの提供がEHEA内で増えているが、ごく一部の学生しか参加していない。追加料や追加授業料、手続き上のバリアー(例: オランダでは自国でのカリキュラムが厳格なため、パートナー機関での勉強がフルに認証されにくい)などの問題がある。
  - (2) ジョイント/ダブル・ディグリー・プログラムは大抵修士レベルなため、フィンランドのポリテクニク等第1学位を主に授与する機関には不利。
  - (3) ジョイント・ディグリーの推進力となっているのはエラスムス・ムンドゥス・プログラム。例えばベルギーのフランドル地方ではジョイント・ディグリーはエラスムス・ムンドゥス・モデルに沿っている。
- ・ 質保証: 学生の質保証作業への参加は限られており、すべてのレベルにおいてではない。また、対等なパートナーとして認められていない。
- ・ 3 サイクル・システム: 表面的には導入が進んでいるように見えるが、実質的なカリキュラム改革を伴っていない。以前からの長い期間のプログラムが単に2つに切られただけのケースも多く、第1サイクルの学位証書の価値が学生にも労働市場にも不明瞭となっている。
- ・ 第2サイクル(修士課程)へのアクセス: 自機関の学士号保有者が優先されているため、外からの修士プログラムへのアクセスが問題になっている。修士レベルで、男性の比率が高く、ジェンダー不平等が見受けられる。
- ・ 国レベルの学位認定フレームワーク: 一部の国でしか導入されておらず、職業的教育・訓練を含む包括的なフレームワークとなるともっと状況が悪い。
- ・ 高等教育におけるヨーロッパの視点: 狭義に解釈されることが多く、外国語教育や、外国語(たいいてい英語)で行う授業、またはボローニャ・プロセスの参加それ自体とされがちである。ヨーロッパ的な見方のカリキュラムへの導入となるとアジェンダにもものぼっていない。
- ・ EHEA の external dimension:
  - (1) 世界へ向けての欧州高等教育機関のマーケティングと捉えられがち。欧州高等教育と他地域との関係が、協力よりも経済的な視点で見られ、それもあって欧州外からの留学生の社会的な状況が向上していない。ビザ取得規則は以前より厳しくなっている。
  - (2) アジアに対する高等教育マーケティングへの関心が高い。地中海諸国の中には南米やアフリ

力から留学生を引き寄せることに興味を持つ国も。

- ・ **頭脳流出**: 欧州(特に西欧)への頭脳流出が容認されてしまっている。但し金銭的なインセンティブによりバランスをはかろうとしている国もある(例えばノルウェーでは途上国からの留学生は学位取得留学のための奨学金があり、卒業後自国に帰る者は助成金として返済を免除され、ノルウェーに残る者は学生ローンとして返済するようになっている)。

### 3. 参加国国内の例: 英国

#### (1) 2007年5月のロンドン会合を前にした英国下院教育技術委員会報告書(英国政府への要望)

House of Commons Education and Skills Committee (2007年4月), *The Bologna Process: Fourth Report of Session 2006-07*

<http://image.guardian.co.uk/sys-files/Education/documents/2007/04/30/bologna.pdf>

2007年5月のロンドン教育大臣会合を前に、教育訓練委員会(下院の任命で、教育訓練省や関連組織の支出、運営、政策を検討)が、ボローニャ・プロセス実施による英国高等教育機関への影響に関する国内ディスカッションを促進するために、意見書提出を依頼し、受け取った40の回答書および教育大臣、オックスフォード市長、英国大学連合会長、高等教育質保証機関(QAA)、英国高等教育欧州ユニット、ニューキャッスル大学学長などからの供述証拠をとりまとめ、報告した。

- ・ **比較可能性か、標準化か**: ボローニャ・プロセスは欧州における高等教育の比較可能性(comparability)や整合性(compatibility)に関するものであって、標準化(standardization)ではない。メンバー諸国内でも均質化(homogenization)を求める声はない。しかし、英国高等教育システムの画一性につながるのではないか、自律性や柔軟性が損なわれるのではないかと不安を訴える声がよく聞かれる。政府には、5月会合での合意が、官僚的でトップダウン式の詳細なものとならないよう用心してもらいたい。
- ・ **英国の参加理由**: すでに3サイクル・システムがあり、発達した質保証システムで管理された高等教育の質の高さで世界的な評判を誇る英国は、EHEAの中で強力な存在である。英国がボローニャ・プロセスに参加し、自己の競争上の有利性を脅かすかもしれないEHEAの他の国々の高等教育改革を助けるのはなぜか。急速にグローバル化する高等教育市場において、他のEHEA諸国がボローニャ・プロセスによって前進するのを脇で見ていられるほどには英国の有利性は高くないからである。プロセスにおいて政府には、各機関の自律性や柔軟性を尊重する文化を守り続けてもらいたい。
- ・ **英国にとっての利益**: 雇用増加や生産性の向上による経済的な利益、国際的なEHEAの魅力促進を通じた英国高等教育セクターの競争力強化、移動性の増加や雇用機会の増加を通じた英国学生にとっての利益、EHEA内での市場拡大による英国大学の利益、教員の移動性、模範例や経験の共有、欧州研究圏での研究協力機会の増加など
- ・ **欧州委員会の役割**: 今日までのボトムアップ・アプローチが損なわれぬよう、政府は欧州委員会に、ボローニャ・プロセスにおける役割を明確化させてもらいたい。
- ・ **質の保証**: 英国の質保証はEHEAの他の国々と異なり、少し距離をおいたアプローチ(arm's length approach)をとってきており、これは他国の質保証システム発達を助ける一方で守られなければならない。
- ・ **単位**: 単位というのは個人の学習成果の同等性を計るものであり、各レベルで求められる一般的な成果のあらましの記述を要するものである。インプット、もしくは「勉強した時間数」にのみ基づいたヨーロッパ単位互換システム(ECTS)は目的にそぐわない。欧州委員会がECTSの見直しを行っているとのことであるが、実際に成果に焦点をあてたものとなるよう、政府及び英国高等教育欧州ユニットには、ロビー活動を続けてもらいたい。
- ・ **第2サイクル(修士)学位認定**: 1年制修士課程及び4年制一貫課程に関し、欧州委員会が1年の修

得可能単位を最大 75 としているのを懸念する(修士認定には 90 単位が必要なため 1 年での修士取得が困難になる)。一学年あたり 75 単位の制限を取り払うよう政府は欧州委員会に求めてほしい。

(2) 英国下院教育技術委員会報告書に対する英国政府回答(2007 年 7 月 3 日発表)

House of Commons Education and Skills Committee (2007 年 7 月), *The Bologna Process: Government Response to the committee's Fourth Report of Session 2006-07*  
<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm200607/cmselect/cmmeduski/788/788.pdf>

- ・ ボローニャ・プロセスが、標準化(standardization)や均質化(homogenization)ではなく、比較可能性(comparability)と整合性(compatibility)に関するものであることを再強調。
- ・ プロセスは自由参加によるものであり、静的で厳格なルールとなってはならない。
- ・ 学生の移動に関しては更なる検討が必要である旨同意する。エラスムスの促進活動が 2007 年 1 月より活発に行われている。ブリティッシュ・カウンシルや産業高等教育委員会(Council for Industry and higher Education)、大学学長とも協議中である。
- ・ 今夏の終わりにボローニャ改革 GP を集めたブックレットを発行する予定
- ・ より多くの学生が参加できるよう派遣留学の財政的支援方法を検討中であるが、各大学は徴収した授業料の一部を回してはどうか。
- ・ 外国語教育に関しては、英国高等教育財政カウンスル(HEFCE)が 4 地域コンソーシアムに予算配分を行う予定。
- ・ 単位に関しては、ボローニャ・プロセスにおいて勉強の成果の重要性について合意している。欧州委員会に対しても成果についてもっと盛り込むべくアプローチを見直すよう指摘を行った。一方で、政府は成果だけでは高等教育学位認定フレームワークとはなり得ないし、ECTS は蓄積システムとしても有効であると考える。
- ・ 1 年制修士課程及び 4 年制一貫課程に関する懸念は、ボローニャに第 2 サイクルの期間規定がないことから、根拠がないのではないか。
- ・ 政府からも、ディプロマ・サプリメントの発行を各高等教育機関に求めたい。

以上

主な参考文献

Bologna Follow-up Group - Stocktaking Working Group 2005-2007 (2007 年 5 月), *Bologna Process Stocktaking London 2007*  
<http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/6909-BolognaProcessST.pdf>

Bologna Follow-up Group - Stocktaking Working Group (2005 年 4 月), *Bologna Process Stocktaking Report 2005*  
[http://www.bologna-bergen2005.no/Bergen/050509\\_Stocktaking.pdf](http://www.bologna-bergen2005.no/Bergen/050509_Stocktaking.pdf)

House of Commons Education and Skills Committee (2007 年 4 月), *The Bologna Process: Fourth Report of Session 2006-07*  
<http://image.guardian.co.uk/sys-files/Education/documents/2007/04/30/bologna.pdf>

House of Commons Education and Skills Committee (2007 年 7 月), *The Bologna Process: Government Response to the committee's Fourth Report of Session 2006-07*  
<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm200607/cmselect/cmmeduski/788/788.pdf>

The National Unions of Students in Europe (ESIB) (2007 年 5 月), *Bologna with Student Eyes 2007 Edition*, London  
<http://www.ond.vlaanderen.be/hogeronderwijs/bologna/documents/Bolognastudenteyes2007.pdf>

Andrejs Rauhvargers (2007), Chair of Stocktaking Working Group, *Bologna Process Stocktaking (Presentation)*  
[http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/20070517\\_Rauhvargers\\_Stocktaking\\_London\\_final.ppt](http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/uploads/documents/20070517_Rauhvargers_Stocktaking_London_final.ppt)